

2 連載小説 **唇のしずく**
 沢木耕太郎さん 第25回

4 オーサの日本探検 そろばん
 歴史のダイアグラム 吉田茂・熱海へ
 それぞれの最終案章

5 知っ得 なっ得 ビジネスマナー入門
 ののちゃんのDO科学
 乾物がお湯で早く戻るのはなぜ？



6 はしまりを歩く 証明写真機
 街角や駅の中の*ミニ写真館。
 機能も用途も広がっています。

7 連載マンガ・コロコロ毛玉日記
 私のThe Best! 青木美沙子さん
 みうらじゅんさん「マイ走馬灯」

9 Reライフ on Saturday
 亀田誠治さん「きっと大丈夫」
 be between 花を買ってる？

10 悩みのつぼ 回答・上野千鶴子さん
 パズル 数独など

11 上野樹里さんに聞く
 内側に挟み込まれています



訪米時には巧みな英語で交渉、議論する。社会人になるまで留学したことがなかったが「話し好き、人好き」を生かして、自力で英語を身につけた。東京都新宿区

新外交イニシアティブ代表・弁護士

猿田 佐世さん (46歳)

独自の外交を切りひらく

「いま必要なのは戦争を起ささないための外交です」。軍事力が本格的に増強されるなか、「戦国遣」を訴え、講演で国内各地を飛び回る。夏にはワシントンへ行く予定だ。コロナ前は毎年3、4回、渡米した。米軍基地、安全保障、原発などについて、米政府や議会に働きかけを行い、既存の外交ルートには乗らない日本の多様な声をワシントンに届けてきた。

「アイティブ(ND)」を立ち上げ、具体的な政策提言を行う調査・研究も行う。国会議員の助米を企画し、日米議員をつないできた。小学生の頃から国連で働くのが夢だった。弁護士になったのも国連への近道と思ったからだ。日本で弁護士として国際人権を学ぶため、07年、ニューヨークのクローレンス・ローススクールに留学。さらに09年から3年間、国際関係を学ぶためにワシントンへ。が、そこで日米外交の実態を

知ったことが人生を変えた。米国には日本の一部の声しか伝わっていない。日本でもワシントンのごく少数の知日派と呼ばれる人々の考えが「米国の声」として伝わり、東京の政策決定に大きな影響を与えていた。日本の政府や大企業は知日派の属する米シンクタンクに多額の資金を提供、追い風となる発言をしてもらい、日本メディアに報道させて「外圧」をつくり、自らが進む政策を日本で実現させていた。「この仕組みをワシントン拡声器」と名

づけ、のちに著書で書いた。こんな外交はおかしい、何かできることはないか。まずワシントンに伝わっていない沖縄の米軍普天間飛行場の辺野古移設反対の声を届けようと手探りで米議会に働きかけを始めた。最初は連絡先もわからなかったが、少しずつ人脈を築いていった。意見を伝えるコミュニケーション力の高さに現地の人吉を巻く。外交に影響を与えるのは容易ではないが、米国防権限から辺野古は唯一の選択肢」という条文が削除されたら

(15年)、米側の要求で日本のフルトニウムの保有量の削減上限が決まったり18年、米下院軍事委員会の小委員会が辺野古の軟弱地盤に懸念を示したり(20年)、仲間とともに、少しだけ変えられた」と成果を感じている。

ND事務局長の巖谷陽次郎さん(32)は1年間変わらぬ姿を見てきた。「ひたむきに外交に打ち込んでいる姿はアスリートのように、でも楽しくて仕方がないという様子です。本人も『うーん、やりがいがある。未知の分野を切りひらいてきた自負もあります』。外交を動かすのは誰なのかを問い続ける。

文林あみ 写真 伊藤進之介
 ▲3面に続く